

野良猫問題の解決に向けて

TNR活動に市民の皆様のご理解とご協力を!

芦屋市が「飼い主のいない猫に対するTNR活動」※への助成を始めてから、もうすぐ2回目の春を迎えようとしています。

※TNRとは：捕獲器で捕まえて→不妊手術を行って→元の場所に放すこと

当協会には、「野良猫が多くて大変!!」「餌をやる人がいるから増えて困る!!」という声がたくさん届きます。野良猫に餌を与えている人の中には、残念ながら無責任でマナーの悪い餌やりさんがいることは確かですが、きちんとルールを守り地域に気を配りながら餌を与えている人達も少なからずおられます。野良猫に餌を与えるという行為自体は法律に反しているわけではなく、小さな命を守りたいという熱い想いに基づいているため「猫に餌をやるな!」と何度注意をしても警察を呼んでも餌を与える行為を止めることは出来ず、全く問題の解決に至っていないのが現状です。

同じ地域に暮らす猫と人とが平和に共生出来る社会をつくるためには猫による被害を軽減し、誰もがストレス無く暮らせるようにしていかなければなりません。

まずは、今いる猫達に避妊・去勢手術を施し、これ以上は増えないようにすること。その上で、その地域での適正な数(迷惑にならない許容範囲内)にまで猫の数を抑えてやる必要があります。野良猫の寿命は飼い猫よりもはるかに短く、2~3年後にはかなりの頭数が減ってきます。

野良猫への餌やりを止めさせようと、いくら頑張ってみても何も改善されないという今の状態を続けるよりは不妊手術を行うことによって猫の繁殖を抑える方が、結局のところは問題解決への近道となるはずですが、どうか市民の皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

当協会では、平成16年度よりTNR活動を開始し、毎年100頭ほどの野良猫に不妊手術を行って参りました。芦屋市助成金交付初年度となった昨年度は、芦屋市全域で154頭の不妊手術を行いました。相談件数が増加した今年度は、市の助成金を夏には使いきってしまったため、他団体の助成金を受けたり当協会の動物愛護基金を使いながら活動している状況ですが、10月末の時点で167頭の不妊手術を完了しています。(次ページ参照)

私達のもとにはたくさんの苦情も寄せられますが、「最近野良猫が随分減ってきましたね」という声が数多く届くようになってきました。芦屋市内から、兵庫県動物愛護センターへ持ち込まれ殺処分となっている猫の頭数も、年々減少傾向にあるようです。これ以上不幸な命を増やさないためにも、私達のTNR活動が役立っていることを信じて、今後も頑張りたいと思っています。



イラスト:のらねこ学入門より